

2018年2月

日本耳科学会用語委員会報告

## 中耳真珠腫進展度分類 2015、英語版 JOS criteria, EAONO/JOS 合意案の整合性について

### はじめに

日本耳科学会中耳真珠腫進展度分類 2015 は、弛緩部型、緊張部型、二次性ならびに先天性真珠腫を網羅する分類案として耳科学会誌ならびに HP 上に公開されている。また、その英語版も JOS staging criteria として、2016 年に ANL 誌と耳科学会 HP 上に公表されたが、さらに今回、ヨーロッパ耳科学会 (EAONO) と日本耳科学会 (JOS) の合意案が J Int Adv Otol 誌に掲載された。このように真珠腫分類をめぐる国際展開が、第 10 回国際真珠腫・耳手術学会 (エディンバラ、2016 年 6 月) Consensus session での合意を目指した EAONO と JOS メンバーによる協議と並行して進められた。用語委員会としては耳科学会案を国際基準にすることを目標に据えたが、彼らとの折衝の過程で若干の記述内容の変化が生じた。それらの経緯を説明するとともに用語委員会としての見解を述べる。

### 中耳真珠腫病態分類について

進展度分類 2015 で定義付けした 4 つの病態分類のなかで、EAONO メンバーが難色を示したのが、二次性真珠腫 “Secondary acquired cholesteatoma” であり、少なくとも “Primary acquired cholesteatoma” と対応するカテゴリーとしての同意は得られなかった。そこで JOS 案として、後者を Retraction pocket cholesteatoma, 前者を Non-retraction pocket cholesteatoma とした上で、二次性真珠腫を cholesteatoma secondary to a chronic tensa perforation (so-called secondary acquired cholesteatoma) と記載することで合意が得られた。

### PTAM 区分と STAM 区分について

耳科学会案と EAONO/JOS 合意案との最大の相違は、PTAM 区分が STAM 区分に替わった点である。STAM の S は supratubal recess と sinus tympani の頭文字からとったもので、JOS が P (Protympanum) として supratubal recess を区別するのであれば、術野確保の難しい sinus tympani も同様に T (tympanic cavity) から区別すべきではないかというのが EAONO 側の見解であった。それぞれ前鼓室と後鼓室に属する解剖学的には離れた領域であるにも関わらず、臨床的に “difficult access sites” として、前者を S1、

後者を S2 と並列表記することになった。S 分類は、JOS 案ではアブミ骨病変の程度を示すための表記として用いており、我々にとっては望ましくない表記ではあったが、他の大部分について JOS staging criteria への合意形成がなされつつある流れの中で、敢えて反論を控えた経緯がある。

### EAONO/JOS 合意案取り扱いに対する用語委員会の見解

日本耳科学会真珠腫進展度分類は、既に我が国では 8 年以上に渡り真珠腫の臨床や研究で広く活用されてきた歴史があり、妥当性評価のための多施設臨床研究や昨年 of 全国登録研究結果からもその有用性が検証されつつある。したがってその最新版である進展度分類 2015 とその英語版 JOS system は、是非このままの形で活用を継続頂き、エビデンスを積み上げていって頂きたいと考えている。幸い EAONO/JOS 合意案の大部分が JOS 案の採用で決着できたので、最も問題となるのは STAM 区分に対する我々の対応である。もともと解剖学的バリエーションの大きい部位でもあり、今後解剖区分の考え方に微妙な齟齬が生じてくる可能性もあるが、国際誌への論文投稿の際には EAONO/JOS 合意案への配慮も必要である。当面は日本耳科学会の PTAM 区分を踏襲しながら、追加的に鼓室洞への進展の有無を記録して頂き、状況に応じて日本耳科学会分類 JOS system と国際分類 EAONO/JOS system の使い分けをお願いしたい

### 中耳真珠種進展度分類 (English documentation) の耳科学会 HP に掲載について

日本耳科学会分類 JOS criteria を記した ANL 誌掲載論文 PDF とそのポスターならびに国際合意分類 EAONO/JOS consensus を記した J Int Adv Otol 誌掲載論文 PDF とそのポスターを用語委員会報告とともに掲載した。上述の状況を踏まえた上で今後の真珠種診療や臨床研究、症例登録などに活用頂きたい。

### 文献

- 1) Tono T, Sakagami M, Kojima H, et al. Staging and classification criteria for middle ear cholesteatoma proposed by the Japan Otological Society. *Auris Nasus Larynx*, 44( 2):135-40, 2017 (Published online: September 9, 2016).
- 2) Yung M, Tono T, Olszewska E, et al. EAONO/JOS joint consensus statements on the definitions, classification and staging of middle ear cholesteatoma. *J Int Adv Otol* 13(1): 1-8, 2017.